

鴻池会地域ケアセンター 9月公開研修会のご報告

『平成30年度の診療・介護報酬同時改定に向けて お医者さんと「認知症」「看取り」「自立支援」 について話し合いませんか!?』

公開研修会も10年目を迎え、今回は地域でご活躍されている下里クリニック下里直行医師、明日香村国民健康保険診療所 武田以知郎医師をお迎えし、『平成30年度の診療・介護報酬同時改定に向けて お医者さんと「認知症利用者の支援」「看取り」「自立支援」について話し合いませんか!?』をテーマに奈良県社会福祉総合センターで開催させていただきました。当日は行政や医療関係者・各施設・事業所から130名の方にご参加いただきました。

まず始めに下里医師より、現在日本では急速に高齢化が進み2050年には、1人が1人の高齢者を支える「肩車型」社会（少子高齢化）になると想定され、医師としても地域高齢化社会に向けて在宅医療に力を注ぐために通院だけではなく往診を積極的に行わないと「医療の役割は機能しない」と伝えられました。在宅で沢山の看取りを経験されている武田医師からは、癌で亡くなる方と認知症、老衰で亡くなる方には違いがある。その方の想いに最期まで寄り添う「逝きかた上手」になる為に、エンディングノート活用や、家族の関わり方について説明され、家族の心に残る看取りができたらと事例も交えて伝えられました。

医師と参加者とのディスカッションでは、医師が考える自立支援とは?という質問に対しては、自立することによるリスクを第一に考えてしまう。という、医師としての立場からご意見を述べられましたが、ご本人の意思には多少のリスクがあっても良いというご自身のお考えもお伝えいただきました。

また、認知症の支援について、特に大きい医療機関や病院ではタイムリーに医師に相談（連絡）が取りづらい…という質問に対して、医師からは、現状は理解しているが「それらの医師もこれから変わらざるを得なくなるだろう」と医師の現場での課題についてもお話して頂きました。参加者からは、普段医師には直接聞きにくい質問なども思い切って投げかけられ、先生からは「ここだけの話…」と「ぶっちゃけトーク」をお話し頂けるなど、時間が足りなくなるほどの盛り上がりでした。

最期に、鴻池荘訪問リハビリ梅田理学療法士より、平成30年度診療報酬、介護報酬同時改定のキーワードとなる「自立支援」に向けて、「医療と介護の連携強化」などの考え方を基本に、この研修を通じてますます医師の協力や多職種が連携することで地域に根付く地域包括ケアシステムが構築できる一歩となれば…と伝えさせて頂きました。また、医師から、「現状は在宅に慣れていない医師が多いが、今後は目を向けざるを得ない状況になってくる。本日ここにいらっしゃる、在宅医療、介護へ関わる皆さんが徐々にそれらの医師を巻き込みながら流れを作ってほしい」と伝えられました。

今回は、実際に在宅医療の現場でご活躍されている医師との交流を通し、改めて、医師と多職種との連携が重要であると再認識する事ができた研修会となりました。

